



**要配慮者利用施設における
土砂災害警戒避難確保計画作成の手引き
〈 別冊：様式・計画作成のポイント編 〉**



**平成30年 7月
(令和3年6月更新)**

群馬県県土整備部砂防課

目次(1/2)

1. はじめに	1
2. 本書の使用方法	3
3. 施設特性の分類	5
4. 作成様式の確認	7

A-1 タイプ ～ B-2 タイプ 別 必要様式 早見表 9 ～ 12

5. 様式の作成	13
----------	----

様式 1 シリーズ : 計画の導入	15
├ 様式 1 : 計画の目的、報告、適用範囲	15
├ 様式 1-1 : 想定される土砂災害の危険性	17
└ 様式 1-2 : 避難タイプ(総合判断表)	19

様式 2 シリーズ : 防災体制	21
├ 様式 2 : 土砂災害に対する状況想定	21
├ 様式 2① : 役割分担表	23
├ 様式 2② : 緊急連絡網	25
├ 様式 2-1 : 参集基準及び体制(想定1,2,3)	27
└ 様式 2-2 : 参集基準及び体制(想定4,5)	29

目次(2/2)

5.様式の作成

様式 3 シリーズ : 情報収集・伝達	31
— 様式 3 : 情報収集・伝達事項の整理	31
— 様式 3-1 : 入手情報の概要・入手方法等	33
— 様式 3-2 : 入手情報の伝達・共有ルート	35
— 様式 3-2① : 外部への情報伝達ルート 及び緊急連絡先一覧表	37
— 様式 3-2② : 施設利用者把握資料	39

様式 4 シリーズ : 避難誘導	41
— 様式 4 : 緊急時の避難誘導	41
— 様式 4-1 : 避難ルートと留意点	43
— 様式 4-1① : 配車計画表	45
— 様式 4-2 : 待避ルートと留意点	47

様式 5 : 施設整備 (備蓄品および災害時必要品チェックリスト)	49
--------------------------------------	----

様式 6 : 教育・訓練	51
--------------	----

6. おわりに	53
---------	----

1. はじめに

平成29年6月に土砂災害防止法が改正され、要配慮者利用施設に対して、

「避難確保計画の作成」および「避難訓練の実施」が義務付けられました。

※市町村地域防災計画に記載の要配慮者利用者施設が対象

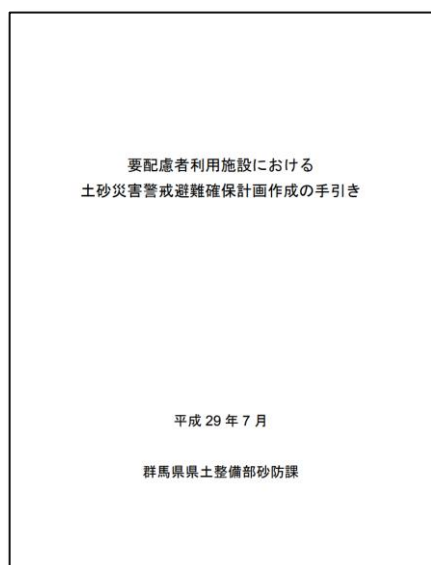
そういった状況や近年多発する土砂災害をニュース等で見聞きして、「要配慮者利用施設の利用者を守るためには何をすれば良いのか」と悩んでいる施設管理者・担当者の方も多いいことと思います。

本書は、「できるだけ作成しやすくなるように」に主眼を置き、施設管理者・職員のみなさまの限られた時間の中で計画が作成できるように“作成のポイント”や“様式”を整理しております。

是非、本書をご活用のおうえ、計画作成を進めていただけたらと思います。

本書は、平成29年7月に群馬県砂防課より公表しました「**要配慮者利用施設における土砂災害避難確保計画作成の手引き**」に準拠しています。（上記手引きは、以降、「群馬県手引き」と称します）

お手元に「群馬県手引き」も準備したうえで、検討を進めていただけますと幸いです。



(URL) http://www.pref.gunma.jp/06/h46g_00001.html

※URLは告知なく変更になる可能性があります

群馬県 避難確保計画

検索



避難確保計画には下記の(ア)から(オ)の項目を、**“定めなければならない”**とされています。

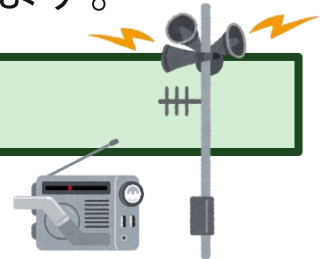
- ー 土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律施行規則 第五条の二
- ー 水害・土砂災害に係る要配慮者利用施設における避難計画点検マニュアル



まずは各項目について**イメージをもっていたくために“要点を整理”**します。

(ア) 防災体制、情報の収集・伝達

- **“避難や待避”** や **“休所・休校”** の判断基準
- **“役割分担”** (①誰が、②何をするのか)
- **“情報の収集・伝達方法”**
(①誰が、②どうやって、③何を収集伝達するのか)



(イ) 避難誘導

- **“避難場所や避難経路”** (施設の避難タイプに応じて施設内外)
※施設の避難タイプは5ページで判定します
- **“避難(待避)の移動手段”** や **“そのための人員”**



(ウ) 施設整備

- **“備蓄品や災害時必要品”**



(エ) 教育・訓練

- **“教育・訓練の実施スケジュール”** や **“その内容”**



(オ) そのほか利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図るために必要な措置

2. 本書の使用方法

ステップ 1

施設特性の分類



本書該当ページ : 5 ~ 6 ページ

- 本書5ページのフロー図に従い、施設の特性を把握しましょう
- 土砂災害警戒区域図が必要となりますので、「群馬県手引き(2-5~2-10ページ)」を参考に準備するか、市町村へ提供依頼をしておきましょう
- 市町村のハザードマップも参考にできる場合があります



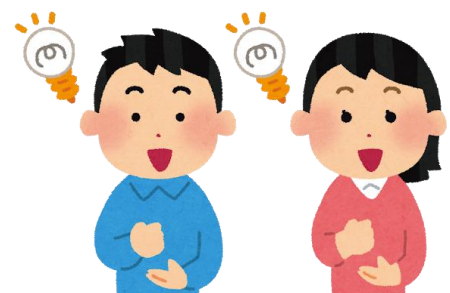
ステップ 2

作成様式の確認



本書該当ページ : 7 ~ 12 ページ

- ステップ1で把握した貴施設の施設特性(A-1~B-2タイプ)で必要となる様式の全体像を確認しましょう



4ページのステップ 3へ

ステップ 3

計画の検討・作成



本書該当ページ : 13 ~ 52 ページ

- 様式を参考に、
計画の検討・作成をしましょう
- 本書は、左ページに“作成指南”、
右ページに“様式”で構成しています。
作成手順や考え方を参考に、
施設の状況を反映した計画を作成しましょう

※直接書き込んでいただくか、巻末に綴じ込むCD内に
様式のデータ(Microsoft Word等)をまとめましたので、
施設が作成しやすい方法を選択してください



ステップ 4

避難確保計画の完成



本書該当ページ : 53 ~ 54 ページ

- ステップ3で検討・作成した様式をとりまとめることで、
避難確保計画が完成します
- 市町村への報告など、
計画完了後に取り組むべき事項がありますので、
本書 53・54ページ の内容を確認し、
計画の実効性向上に努めましょう



(継続的に実施) 教育・訓練等による計画の見直し・更新

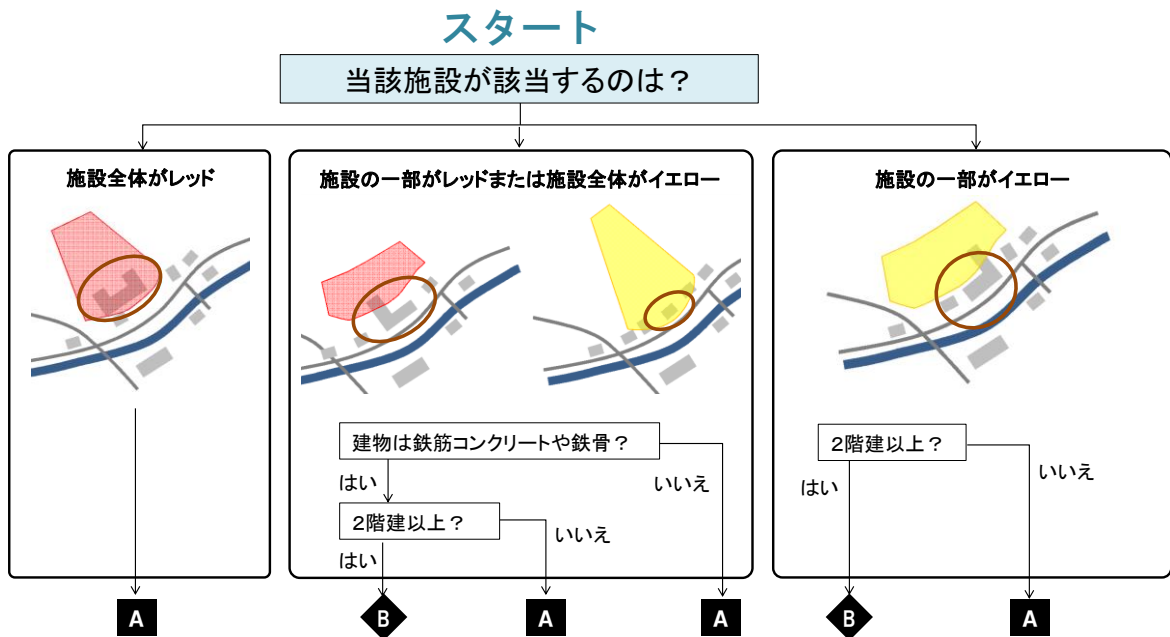
3. 施設特性の分類

まずはお手元に「土砂災害警戒区域図」を準備してください。

下記の判定フローに基づき、貴施設が“施設外避難原則タイプ”か“施設内待避可能タイプ”なのかをご確認ください。

施設の避難タイプ判定フロー

－ 群馬県手引き（2-11ページ）



分類	施設の立地・構造・階数条件に応じた避難タイプ	確認結果
A	<p>■施設外避難原則タイプ</p> <p>台風接近等、避難行動のための準備時間が十分にある場合はいうまでもなく、集中豪雨等の場合においても早めの判断・行動を開始することにより、原則施設外避難（水平避難）とする。</p> <p>指定避難所等に移動するまでの時間が十分に確保できない場合であっても、施設にとどまるのは危険であることから、退避できる場所を確認しておくことが望ましい。</p>	
B	<p>■施設内避難可能タイプ</p> <p>台風接近等、避難行動のための準備時間が十分にある場合は、原則施設外避難（水平避難）とする。</p> <p>ただし、急激な集中豪雨等により、避難時間が十分に確保できない場合は、避難中の被災を回避するための緊急的な避難行動として、施設内にとどまり、施設の2階以上のなるべく上の階で、かつ山と反対側の部屋等に避難する。</p>	

下記の二つの質問に回答いただき、施設特性は判定してください。
この判定に基づき、次ページ以降に必要な様式を整理しています。

問1 | 施設は夜間も利用者がいますか

(夜間も利用者がいる)
入所系施設

(昼間のみ利用者がいる)
通所系施設・学校

問2 | 施設の避難タイプはどちらですか

施設外避難原則タイプ

施設内待避可能タイプ

判定 | 貴施設の施設特性は下記のとおりです

A-1

必要様式は
9ページを参照

A-2

必要様式は
10ページを参照

B-1

必要様式は
11ページを参照

B-2

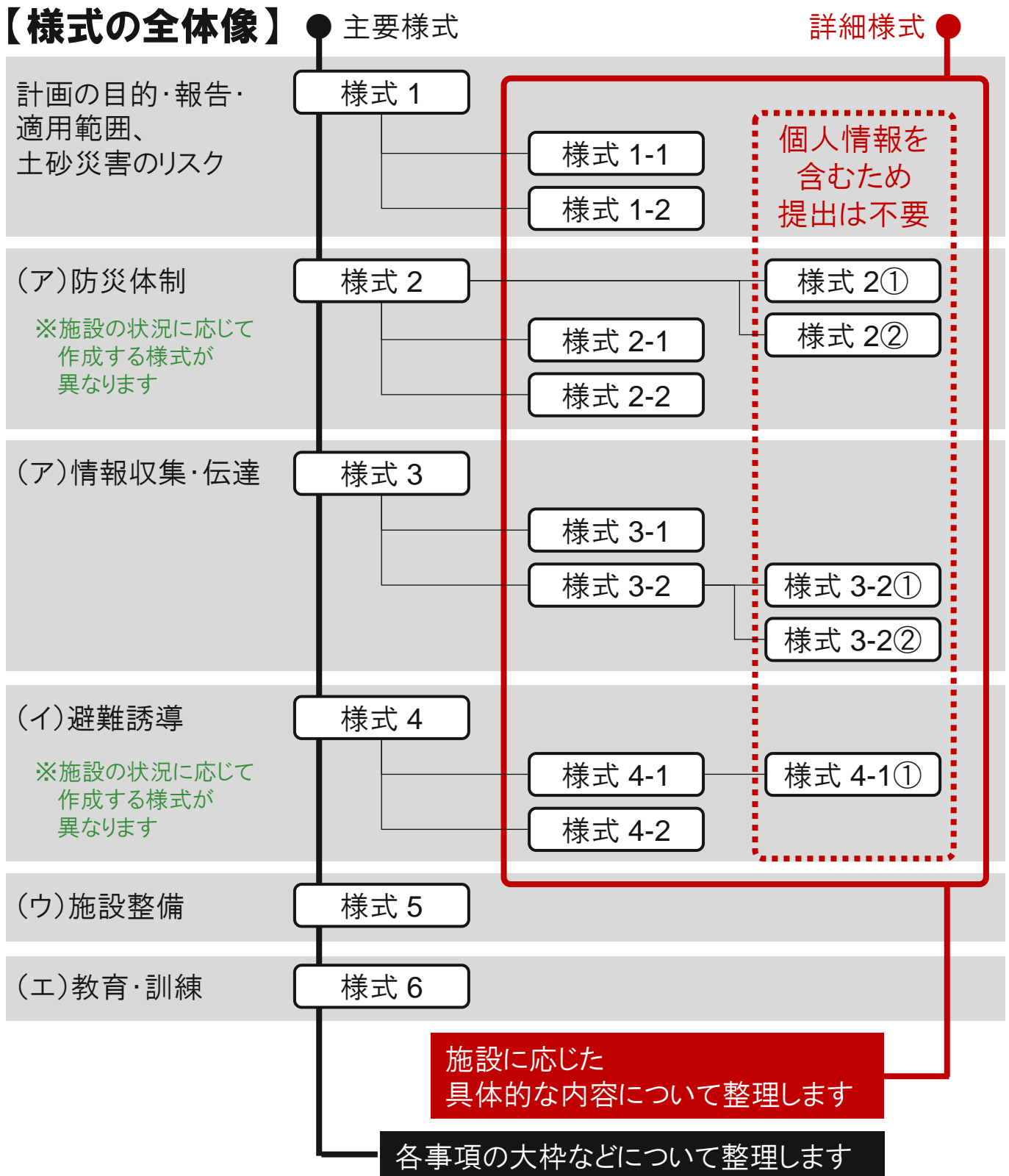
必要様式は
12ページを参照

4. 作成様式の確認

本書で作成できる様式は下記のとおりです。

9ページ目以降に施設特性分類（A-1～B-2）に応じた必要様式を整理しましたので、施設特性の分類に該当するページをご確認ください。

【様式の全体像】



コラム：避難確保計画作成を支援する手引きや様式集

土砂災害防止法の改正を受け、
国や県から避難確保計画作成の手引きや様式集が公表されています。

必要に応じて参考とし、より良い避難確保計画を作成しましょう。

▼ 各機関から公表されている避難確保計画作成を支援する手引き・様式集一覧

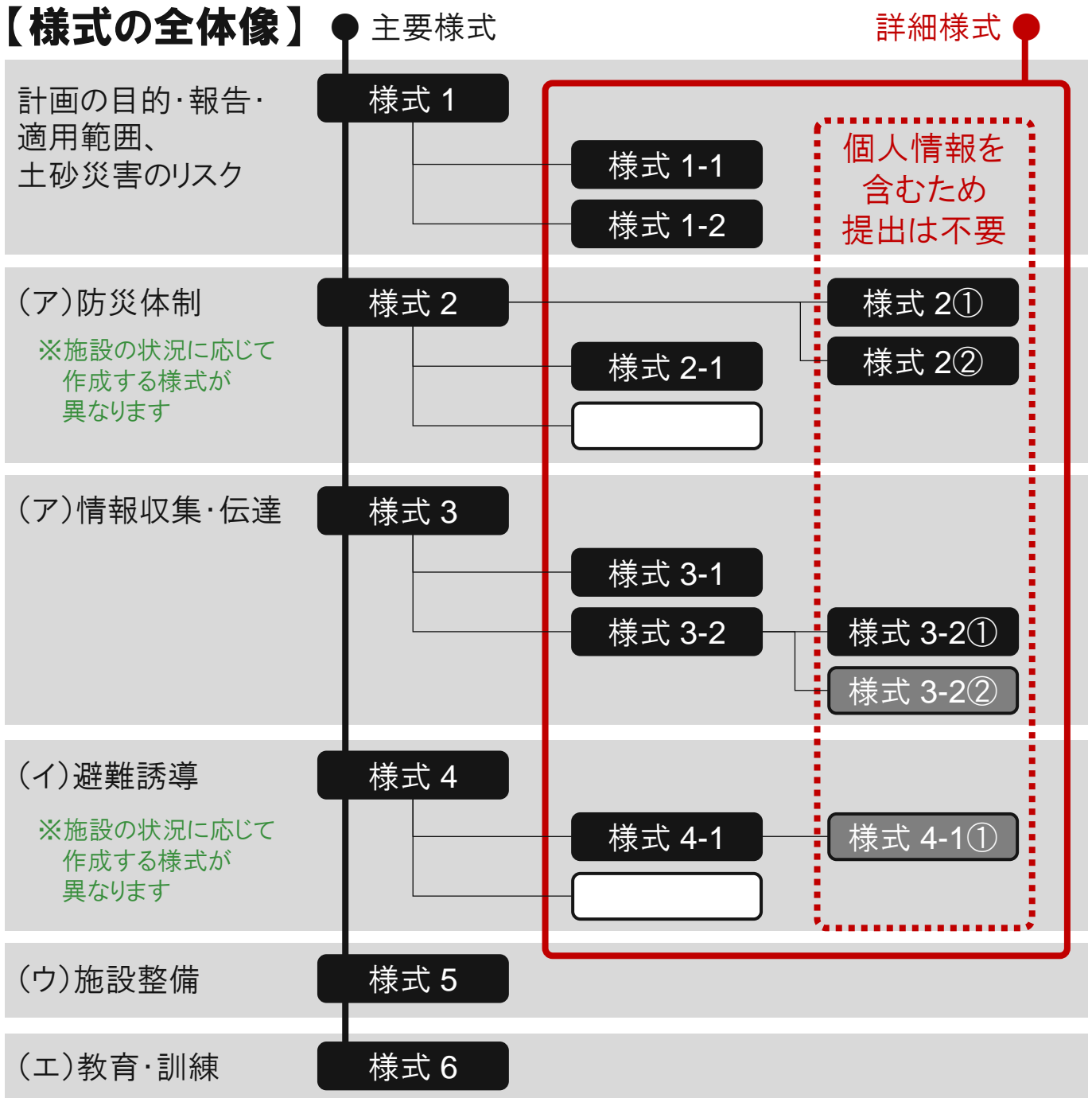
No	分類	災害種別	資料名	公表等機関	公表年月
1	パンフレット	土砂災害	要配慮者利用施設における 避難確保計画の作成等に関するパンフレット ＜要配慮者利用施設の所有者・管理者の皆さまへ＞	国土交通省	2017年 6月
2	パンフレット	土砂災害	要配慮者利用施設における 避難確保計画の作成等に関するパンフレット ＜都道府県・市町村の担当者の皆さまへ＞	国土交通省	2017年 6月
3	手引き	土砂災害	要配慮者利用施設管理者のための 土砂災害に関する避難確保計画作成の手引き (手引き、作成例、チェックリスト) ※作成例のWordファイルが別途公表されている	国土交通省	2017年 6月
4	市町村向け 点検マニュアル	水害 土砂災害	水害・土砂災害に係る要配慮者利用施設に おける避難計画点検マニュアル ※市町村向けの計画点検マニュアルであり、 記載要件を確認できる	厚生労働省/ 国土交通省	2017年 6月
5	事例集	土砂災害	土砂災害警戒避難事例集 ※避難確保計画の作成方法について 直接関わるものではないが、 要配慮者への避難について事例が掲載されている	国土交通省	2009年 9月
6	手引き	土砂災害	要配慮者利用施設における 土砂災害警戒避難確保計画作成の手引き	群馬県	2017年 7月
7	様式	土砂災害	避難確保計画(マニュアル)ひな形・参考資料	群馬県	2017年 7月
8	様式	土砂災害	土砂災害警戒避難確保計画(案) ～災害対応編～ひな形	群馬県	2017年 7月
9	事例集	水害 土砂災害	要配慮者利用施設における避難に関する 計画作成の事例集(水害・土砂災害) ※第2版	内閣府/消防庁/ 厚生労働省/ 国土交通省/気象庁	2018年 3月
10	手引き	水害 (洪水・内水・高潮)	要配慮者利用施設(医療施設等を除く)に係る 避難確保計画作成の手引き (洪水・内水・高潮編)	国土交通省	2017年 6月
11	手引き	水害 (洪水・内水・高潮)	要配慮者利用施設(病院、診療所、助産所、介護老人 保健施設等)に係る避難確保計画作成の手引き (洪水・内水・高潮編)	国土交通省	2017年 6月
12	手引き 様式	水害 (洪水・内水・高潮)	要配慮者利用施設における避難確保計画作成 の手引き別冊(作成支援編・様式編)	国土交通省	2017年 6月以降
13	様式	水害 (洪水)	計画作成のひな形	国土交通省	2017年 6月以降
14	手引き	水害 (洪水)	既存の計画への追記による避難確保計画の作成 ※消防計画に追記する例を整理している	国土交通省	2017年 6月以降

A-1 タイプ（入所系施設 × 施設外避難原則タイプ）

<特徴>

- ・ 高齢者や障害者、入院患者などが入所する施設が該当
- ・ 施設外への避難が原則となるため、移動が困難である利用者の支援に多くの職員・支援者が必要となり体制構築が必要となる
- ・ 外部との連携（避難支援の手を確保できるか）も重要な観点である

【様式の全体像】



凡例



必要



不要



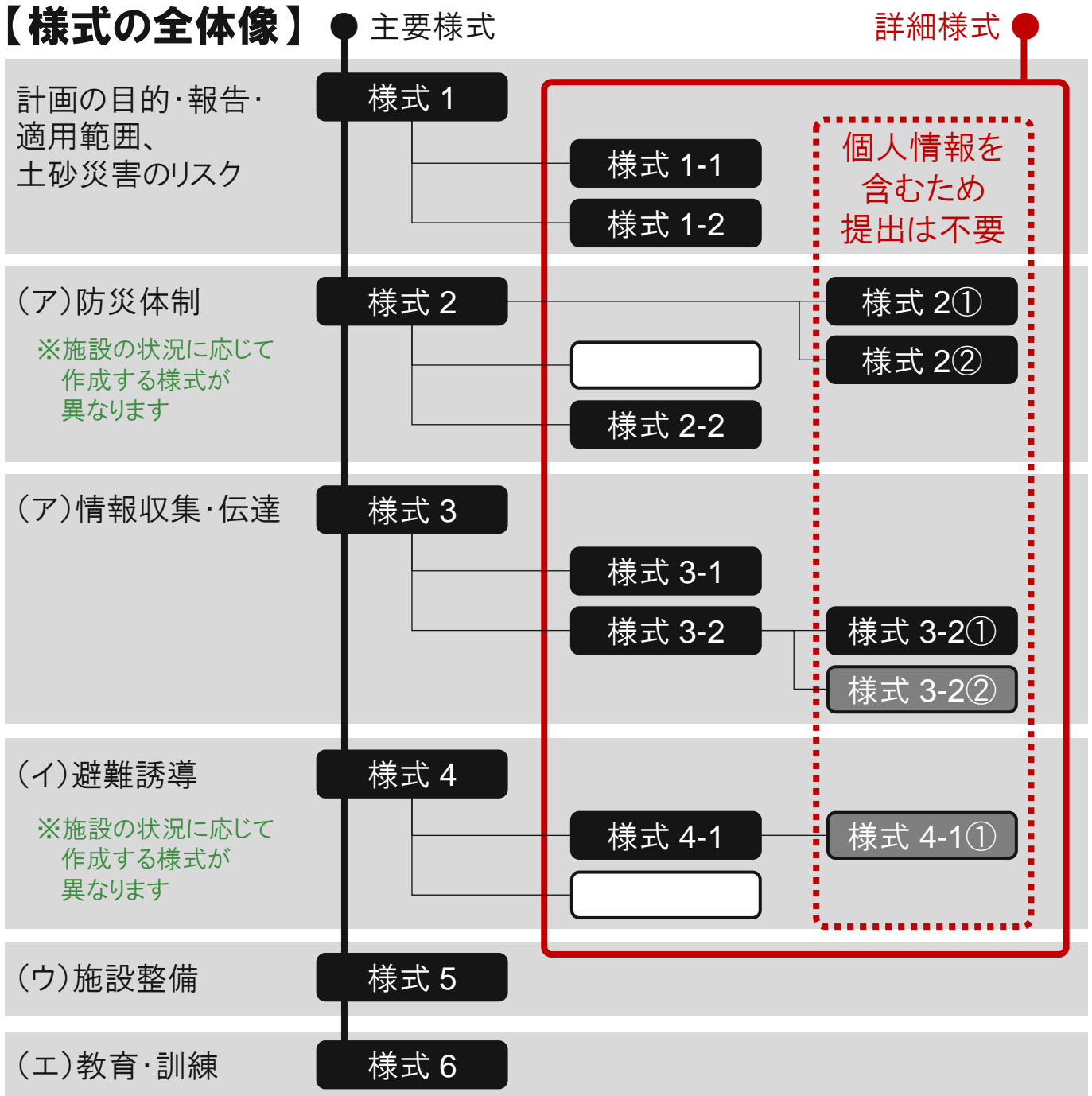
状況に応じて選択

A-2 タイプ（通所系施設・学校 × 施設外避難原則タイプ）

<特徴>

- ・ 高齢者や障害者、通院患者などが通所する施設、また、学校や幼稚園などの教育機関、保育園などの施設が該当
- ・ 事前に休所・休校を判断するタイミングを検討しておくことや、いざという時の施設外避難を検討しておくことが重要となる

【様式の全体像】



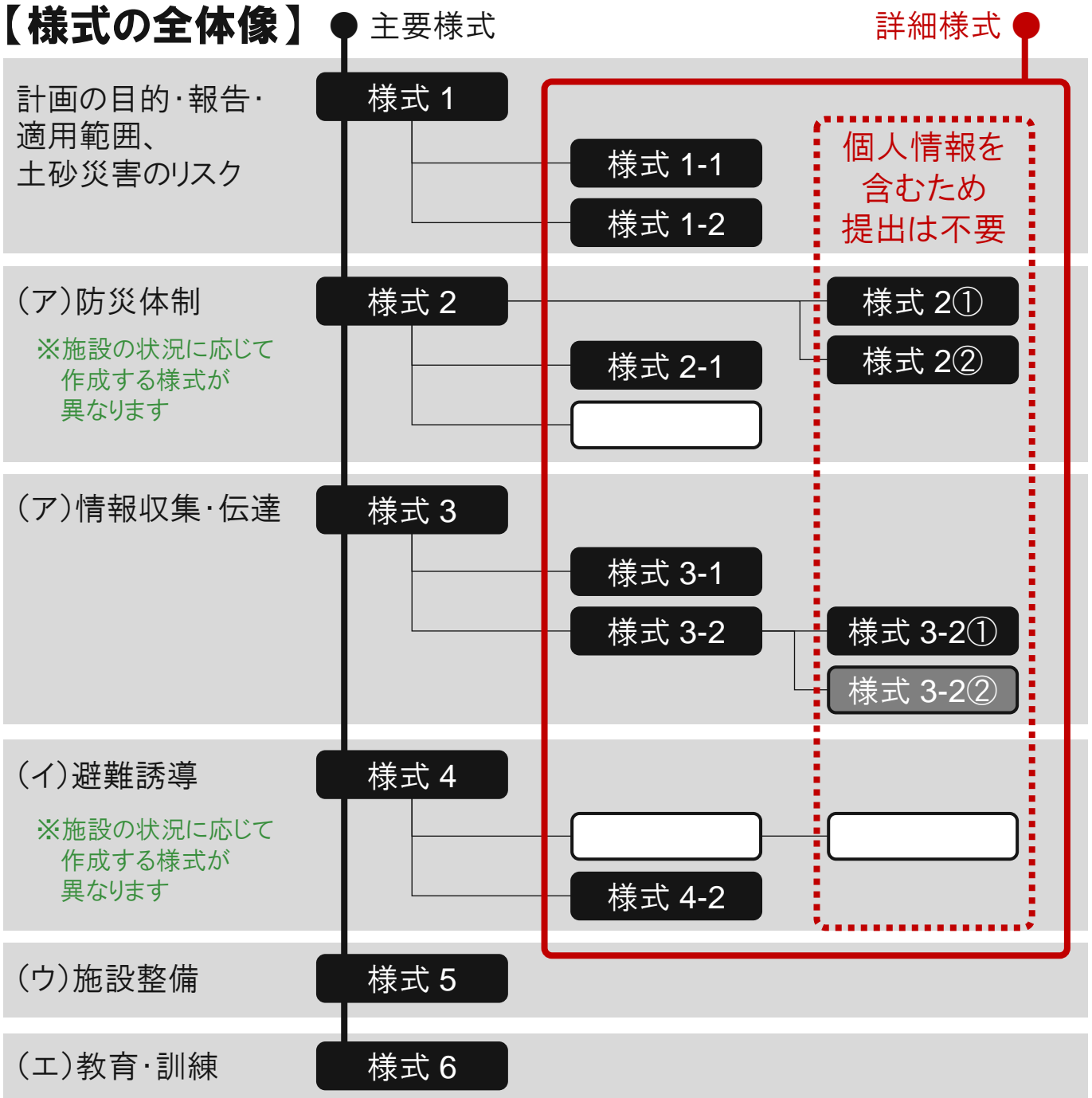
凡例	必要	/	不要	/	状況に応じて選択
----	----	---	----	---	----------

B-1 タイプ（入所系施設 × 施設内待避可能タイプ）

<特徴>

- ・ 高齢者や障害者、入院患者などが入所する施設が該当
- ・ 施設内での待避が可能となるため、移動が困難である施設利用者の移動距離を最小限にとどめることが可能となる
- ・ 孤立等による不安があり、十分な備蓄が必要となる

【様式の全体像】



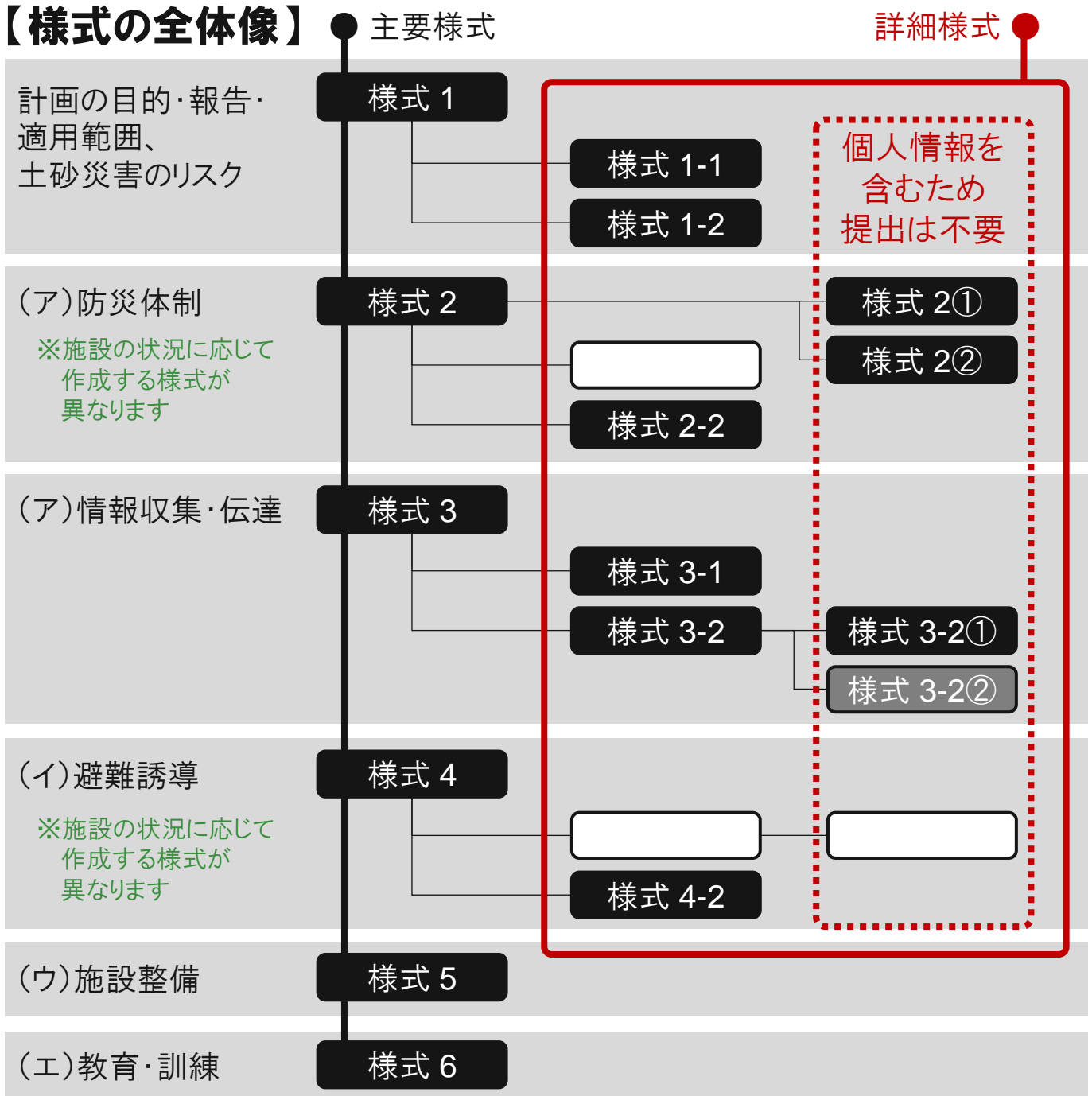
凡例	必要	/	不要	/	状況に応じて選択
----	----	---	----	---	----------

B-2 タイプ（通所系施設・学校 × 施設内待避可能タイプ）

<特徴>

- ・ 高齢者や障害者、通院患者などが通所する施設、また、学校や幼稚園などの教育機関、保育園などの施設が該当
- ・ 事前に休所・休校を判断するタイミングを検討しておくことや、いざという時の施設内待避を検討しておくことが重要となる

【様式の全体像】



凡例	必要	/	不要	/	状況に応じて選択
----	----	---	----	---	----------

5. 様式の作成

15ページ目以降に必要なとなる様式とその作成のポイントを掲載しております。

【 ▼ 様式の作成に関わるページの解説 】

左ページ： 計画作成のポイント

貴施設の施設特性タイプ(A-1からB-2)に応じて必要な様式かがわかります。
(必要 / 不要 / 状況に応じて選択)

“群馬県手引き”の様式番号が確認できます。
すでに作成されている場合は、新たに作成する必要はありませんので、それをご活用ください。

様式1：計画の目的、報告、適用範囲

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

追加様式

様式1では、①計画の目的、②市町村長への報告、
③計画の適用範囲を整理しましょう。

各施設で、“③計画の適用範囲”は異なりますので、
貴施設の状況を書き込んでください。



右ページの
様式の
説明です。
良く読んで、
どんな内容
なのか
イメージ
しましょう。

【計画導入部分の作成について】

- 【1】“目的”については、**法律に基づき作成していること**、
そのうえで**利用者の円滑かつ迅速な避難の確保**
を図ることを目的としている旨、記載しています。
※適宜、施設にあったものに修正しても構いません
- 【2】“報告”については、**施設は法律に基づき報告義務**
がありますので、**担当者が変わった時などにも**
報告漏れがないように記載しています。
- 【3】“適用範囲”については、利用者はもちろんのこと、
施設職員にもその意識をもってもらえるように、
全体像(状況に応じた人数)を把握します。
利用者と施設職員の人数を記入しましょう。
- 【4】土砂災害の危険性について、
様式1-1 および **様式1-2** で整理していきます。



様式作成の
ポイントです。
この部分を
確認しながら、
様式を作成
しましょう。

“左ページ”を確認しながら “右ページ”を作成しましょう！



右ページ：作成様式

更新時期が異なる可能性がありますので、
それぞれの様式に作成年月日をご記入ください。

(様式1)

年 月 日作成

■ 計画の目的

この計画は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(以降、「土砂災害防止法」と称す)第八条の二第1項に基づくものであり、本施設の利用者の土砂災害時の円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的とする。

■ 計画の報告

計画を作成及び必要に応じて見直し・修正をしたときは、土砂災害防止法第八条の二第2項に基づき、遅滞なく、当該計画を市町村長へ報告する。

■ 計画の適用範囲

この計画は、本施設に勤務又は利用する全ての者に適用するものとする。

【施設の状況】

人 数			
昼 間 ・ 夜 間		休 日	
利用者	施設職員	利用者	施設職員
昼 間	昼 間	休 日	休 日
約 名	約 名		
夜 間	夜 間	約 名	約 名
約 名	約 名		

■ 土砂災害の危険性および避難対応の把握

土砂災害の危険性について、様式1-1に本施設周辺の土砂災害警戒区域等を整理するとともに、状況を加味した避難対応を様式1-2に示す。

様式により記入する箇所は異なりますが、
空欄となっている部分をご記入いただき、様式を完成させてください。

様式1：計画の目的、報告、適用範囲

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

追加様式

様式1では、①計画の目的、②市町村長への報告、③計画の適用範囲を整理しましょう。

各施設で、“③計画の適用範囲”は異なりますので、貴施設の状況を書き込んでください。



【計画導入部分の作成について】

- 【1】“目的”については、**法律に基づき作成していること、そのうえで利用者の円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的**としている旨、記載しています。
※適宜、施設にあったものに修正しても構いません
- 【2】“報告”については、**施設は法律に基づき報告義務**がありますので、**担当者が変わった時などにも報告漏れがないよう**に記載しています。
- 【3】“適用範囲”については、利用者はもちろんのこと、**施設職員にもその意識をもってもらえるように、全体像(状況に応じた人数)を把握**します。
利用者と施設職員の人数を記入しましょう。
- 【4】土砂災害の危険性について、**様式1-1** および **様式1-2** で整理していきます。



年 月 日作成

1. 計画の目的

この計画は、土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律(以降、「土砂災害防止法」と称す)第八条の二第1項に基づくものであり、本施設の利用者の土砂災害時の円滑かつ迅速な避難の確保を図ることを目的とする。

2. 計画の報告

計画を作成及び必要に応じて見直し・修正をしたときは、土砂災害防止法第八条の二第2項に基づき、遅滞なく、当該計画を市町村長へ報告する。

3. 計画の適用範囲

この計画は、本施設に勤務又は利用する全ての者に適用するものとする。

【施設の状況】

人 数			
昼 間 ・ 夜 間		休 日	
利用者	施設職員	利用者	施設職員
昼 間	昼 間	休 日	休 日
約 名	約 名		
夜 間	夜 間	約 名	約 名
約 名	約 名		

4. 土砂災害の危険性および避難対応の把握

土砂災害の危険性について、様式1-1に本施設周辺の土砂災害警戒区域等を整理するとともに、状況を加味した避難対応を様式1-2に示す。

様式1-1：当該施設で想定される土砂災害の危険性

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

参考 3

様式 1-1 では、具体の計画検討に入る前に、施設の土砂災害の危険性を把握・整理します。

<記入例> 「群馬県手引き」 2-10 ページ

※該当ページ 2-5 から 2-15 ページ



【土砂災害の危険性の把握について】

- 【1】土砂災害の危険性を知る情報として、“土砂災害警戒区域”、“土砂災害特別警戒区域”があります。まずは下記より、情報を収集しましょう。

<土砂災害警戒区域等を知ることができる媒体>

- **マッピングぐんま**（インターネットで検索）
…使用方法については、
「群馬県手引き」 2-5 から 2-10ページを参照
- 市町村が公表する**ハザードマップ**
…作成中の市町村もありますので、
市町村関係部署にお問い合わせください

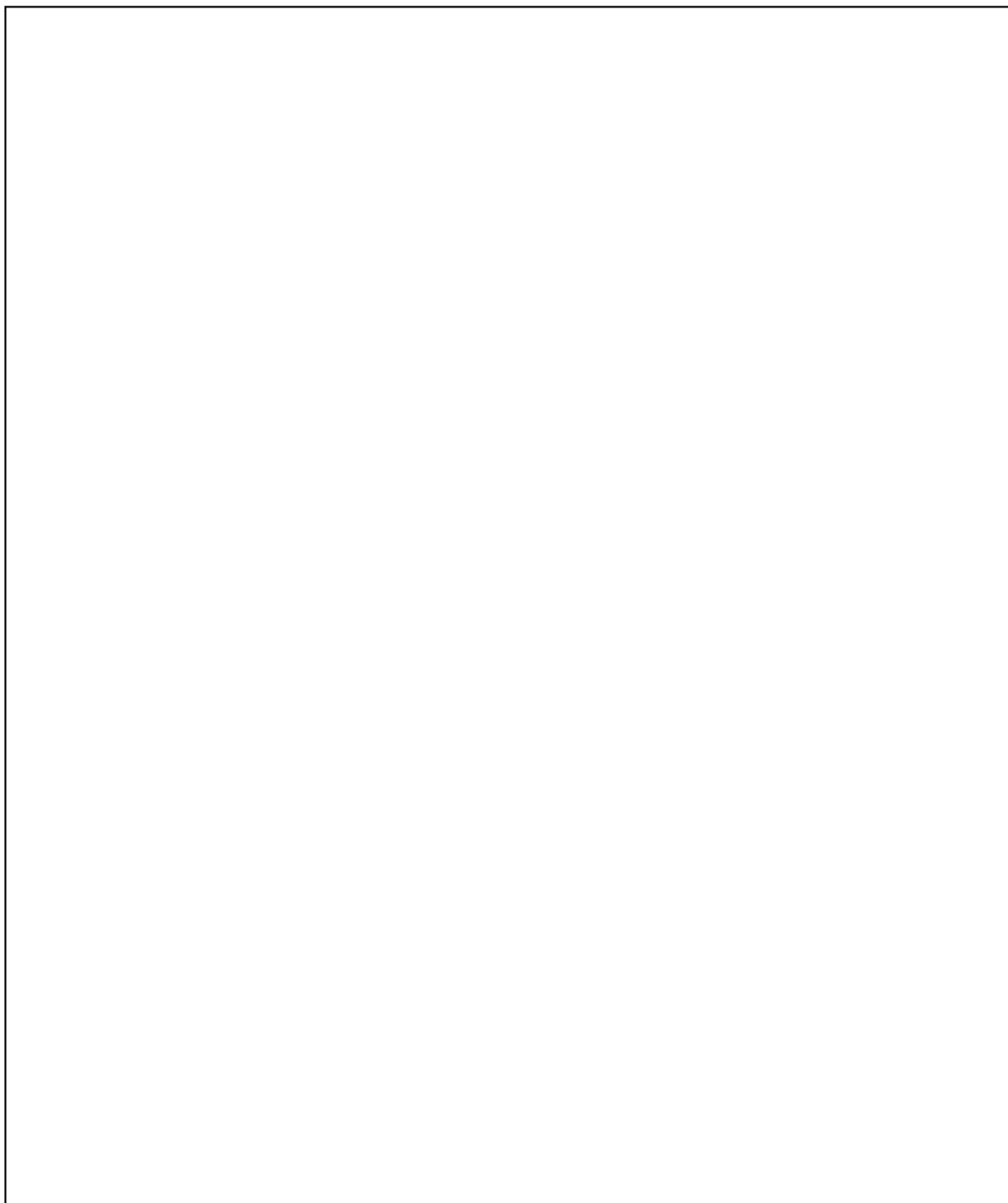


■ 当該施設で想定される土砂災害の危険性

[主担当:]

本施設周辺の土砂災害警戒区域等を下図(または別紙)に示す。

年 月 日作成



様式1-2：当該施設の避難タイプ(総合判断表)

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

参考 4

様式 1-2 では、施設の土砂災害の危険性を加味した避難タイプを判断・整理します。

<記入例> 「群馬県手引き」 2-14 ページ

※該当ページ 2-5 から 2-15 ページ



【避難タイプの判断について】

- 【1】 5ページの判定フローの結果に加え、
下記の判断フロー(「群馬県手引き」2-13ページ)に基づき、
様式1-2 に貴施設の避難タイプを明記しましょう。

スタッフの人数※は利用者に対し十分
(利用者:職員総数=2:1)であるか？

はい

いいえ

施設外避難原則タイプ？(6ページの結果)

いいえ

はい

施設所有の移動車両やリフト車等が
利用者数分**確保できる

はい

いいえ

緊急時には外部の支援(避難補助、
車両貸出等)を期待できる

はい

いいえ

ア

ア

ア

イ

※日中/夜間のうち、利用者に対する職員数が少ない場合の人数

※※利用者人数未満の第数の車両が一定時間内に往復して対応する場合も可



■ 当該施設の避難タイプ(総合判断表)

[主担当:]

本施設の避難タイプを下表に示す。

年 月 日作成

		施設の立地・構造・階数条件に応じた避難タイプ	
		A	B
利用者や運営体制からみた避難行動実施可能性	ア	<p>■施設外避難原則タイプ</p> <p>施設外への避難が原則です。ただし、以下の点に留意する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">・台風や移動性低気圧など、ある程度降雨の予想ができる場合が望ましい・避難受入先との連携が必要となる・避難中に被害に遭うリスクがある	<p>■施設内避難可能タイプ</p> <p>施設内での避難が可能です。ただし、以下の点に留意する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none">・想定を超えた被災をする可能性がある・停電等に伴う施設機能の低下によって想定した避難ができない場合がある・孤立被害につながる可能性がある
	イ	<p>■施設外避難原則タイプ(準備段階)</p> <p>施設外への避難が必要な立地・構造・階数の条件にありますが、利用者や運営体制面で避難が困難です。</p> <p>状況を改善するには、施設職員を増やして利用者に見合った運営体制を実現するか、外部機関・施設による支援体制を強化する等の方策により「施設外避難原則タイプ」を目指すことが考えられます。</p>	<p>■施設内避難可能タイプ(準備段階)</p> <p>施設内での避難が必要な立地・構造・階数の条件にありますが、利用者や運営体制面で避難が困難です。</p> <p>状況を改善するには、施設職員を増やして利用者に見合った運営体制を実現するか、外部機関・施設による支援体制を強化する等の方策により「施設内避難可能タイプ」を目指すことが考えられます。</p> <p>また、体制はそのままであっても、設備の改良や避難対象となる利用者の入居形態の見直し等を行うことにより、状況を改善することも考えられます。</p>

本施設は _____ です。

様式2：防災体制 - 土砂災害に対する状況想定

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

追加様式

様式2では、貴施設で考えられる状況想定を整理していきます。

事前に多くの状況を想定しておくことで、いざという時の対応がとりやすくなります。



【“防災体制”についての計画作成手順】

- 【1】“参集基準や体制”の検討においては、施設がどのような状況におかれるのかをあらかじめ想定しておくことが大切です。まずは、**様式2**を使用し状況を想定しましょう。
- 【2】体制に係る役割分担を**様式2①**に整理しましょう。また、連絡網を**様式2②**を整理しておきましょう。
- 【3】**<想定1,2,3に該当する施設>** → **様式2-1**
避難(待避)対応が必要となりますので、そのための参集基準及び体制、避難(待避)を判断する基準を検討しましょう。
<想定4,5に該当する施設> → **様式2-2**
休所・休校対応(利用者家族への連絡や送迎)が理想となりますので、そのための参集基準及び体制、休所・休校対応を判断する基準を検討しましょう。



■ 土砂災害に対する状況想定

本施設で考えられる要配慮者の避難対応が必要となるような土砂災害発生時の状況を、下記に整理する(該当するチェック欄にチェック)。

また、それぞれの想定に応じて、様式2-1(様式2-2)に参集基準及び体制を整理する。

□ 当施設は入所系施設であるため、下記の状況を想定し、 様式2-1 に参集基準及び体制、避難(待避)基準を示す

- 想定1. 天候悪化などにより、避難(待避)対応が必要となる状況
- 想定2. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき
昼間から夕方にかけて避難(待避)対応が必要となる状況
- 想定3. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
夜間から明け方にかけて避難(待避)対応が必要となる状況

□ 当施設は通所系施設・学校であるため、下記の状況を想定し、 様式2-2 に参集基準及び体制、避難(待避)基準を示す

- 想定4. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
施設・学校を事前に休所・休校する対応がとれる状況
- 想定5. 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、
通常通りに施設・学校を開けているが、
施設・学校を休所・休校する対応がとれる状況

様式2①：防災体制 - 役割分担表

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

様式 3

様式 2① では、
緊急時の役割分担について、班形式で整理します。

<記入例>

「群馬県手引き」3-5ページ をご確認ください。



【 役割分担 の考え方 】

- 【1】 様式2① の業務内容を確認し、該当する事項にチェックを入れましょう。そのほか想定される業務内容があれば、追加して明記しておきましょう。
- 【2】 総括責任者やそれぞれの班のリーダーを決めましょう。また、不在時を想定し、代理も定めておきましょう。
- 【3】 メンバーについては、普段から構成しているチーム等あれば、そのままあてはめていただくことで構いません。いざという時でも動けるような体制を検討しましょう。
- 【4】 協力施設についても同様に整理しておきましょう。
- 【5】 作成後には、担当者の所属班や役割を共有し、それぞれの役割への理解を深めておきましょう。

※ 本様式については、一部個人情報も含まれることや定期的な更新が想定されることから**市町村への提出は不要**です。
適切に管理しましょう。



■ 役割分担表 [主担当:]

年 月 日作成

<当該施設>

担当	業務内容	担当者	備考
総括責任者	<input type="checkbox"/> 総括責任 (避難判断、防災対応につ いての指揮ほか全般) <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 総括責任者: <input type="checkbox"/> 代理①: <input type="checkbox"/> 代理②:	
情報収集 ・連絡班	<input type="checkbox"/> 気象・災害の情報収集 <input type="checkbox"/> 職員への連絡、 職員・職員家族の安否確認 <input type="checkbox"/> 関係機関との連絡・調整 <input type="checkbox"/> 利用者家族への連絡 <input type="checkbox"/> 地域住民やボランティア団体、 近隣の社会福祉施設への 救援要請等 <input type="checkbox"/> 避難状況のとりまとめ <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> リーダー: <input type="checkbox"/> 代理①: <input type="checkbox"/> 代理②: <input type="checkbox"/> メンバー:	
避難誘導班	<input type="checkbox"/> 利用者の安全確認 <input type="checkbox"/> 施設、設備の被害状況確認 <input type="checkbox"/> 利用者への状況説明 <input type="checkbox"/> 利用者の避難誘導 <input type="checkbox"/> 利用者の家族への引き渡し <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> リーダー: <input type="checkbox"/> 代理①: <input type="checkbox"/> 代理②: <input type="checkbox"/> メンバー:	
物資班	<input type="checkbox"/> 物資の普段からの維持管理 <input type="checkbox"/> 物資の運搬 <input type="checkbox"/> 物資の被災時の管理 <input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> リーダー: <input type="checkbox"/> 代理①: <input type="checkbox"/> 代理②: <input type="checkbox"/> メンバー:	

<協力施設>

担当	業務内容	協力施設・担当者	備考
	<input type="checkbox"/> 当該施設へ職員を派遣し、 災害支援にあたる <input type="checkbox"/> 避難者の受入れを担当する <input type="checkbox"/>		

様式2②：防災体制 - 緊急連絡網

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

様式 4

様式 2② では、いざというときに備え、
施設職員の緊急連絡網について整理します。

<記入例>

「群馬県手引き」3-7ページ をご確認ください。



【 緊急連絡網 の考え方 】

- 【1】 参集の際に使用することを想定し、
施設職員の緊急連絡網を作成しましょう。
- 【2】 普段使用している連絡網も活用できますが、
様式2①で検討した役割分担に基づくものであると、
いざというときに、スムーズな連絡が可能と考えます。
施設の状況に応じてご検討ください。
- 【3】 電話連絡のほか、メーリングリストやSNSでの
一括情報伝達が可能であれば積極的に活用し、
情報伝達のスピードを向上させましょう。

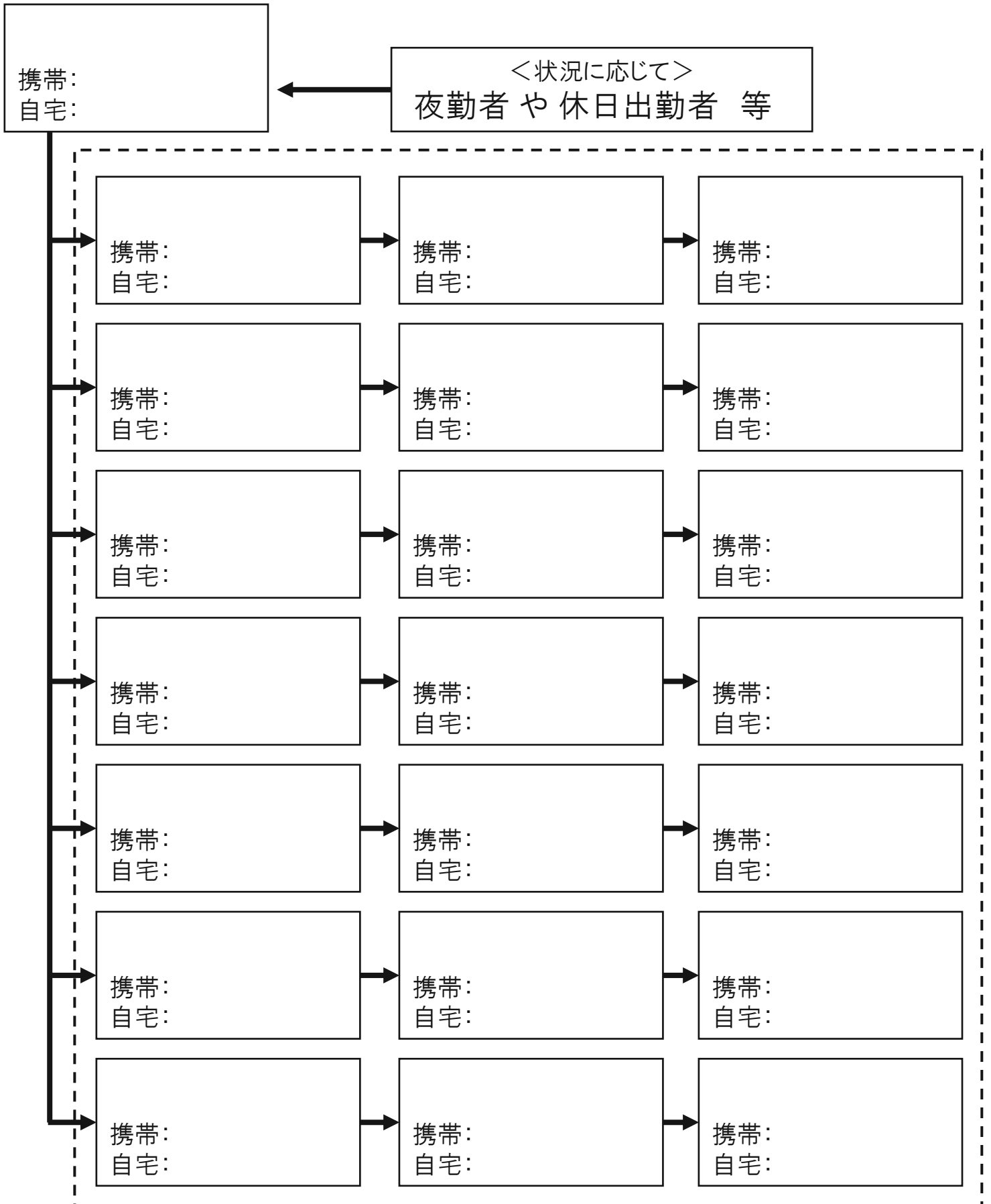
※ **すでに他計画で作成**(消防計画や地震防災応急計画など)していたり、
日常使用しているものがあったりするようでしたら、**再度作成する必要はありません。**

※ 本様式については、一部個人情報も含まれることや
定期的な更新が想定されることから**市町村への提出は不要**です。
適切に管理しましょう。



■ 緊急連絡網 [主担当:]

年 月 日作成



様式2-1：防災体制 - 参集基準及び体制（想定1,2,3）

対象

A-1

B-1

群馬県手引き

様式 1

様式 2-1では、避難（待避）対応を行うにあたっての参集基準及び体制、避難（待避）を判断する基準を整理します。

＜記入例＞「群馬県手引き」3-6ページや
下記に整理する考え方をご確認ください。



【参集基準及び体制、避難（待避）判断の考え方】

該当する事項のチェックボックスにチェックをし、そのほか追加する事項がありましたら書き加えてください。

【1】“体制”について、各体制のイメージは下記のとおりです。

【第一次体制】
情報収集や伝達をおこなうことが中心

【第二次体制】
避難（待避）準備をおこなうことが中心

【第三次体制】
避難（待避）の体制を整えることが中心

【2】“参集基準”について、様式2-1では気象情報を中心に明記しておりますが、あらかじめ状況想定ができる場合には、朝や昼などの時間帯を設定することも有効です。

【3】“出動体制”については、様式2①で整理した班構成に基づき、その役割と照らし合わせて判断しましょう。

【4】“避難（待避）基準”については、なるべく早めの対応ができるように検討しましょう。

【雨量について】

“一般的に”土砂災害発生危険性が高まる雨量は、下記のとおりとされています。

- 累積雨量（降り始めてから現在までの雨）： 100mm
- 時間雨量（1時間に降った雨）： 20mm
（ワイパーを一番早く動かしてもはけきれない程の雨）



■ 参集基準及び体制、避難(待避)基準 [主担当:]

年 月 日 作成

体制	参集基準	出動体制	参集基準	出動体制
<input type="checkbox"/> 想定1 天候悪化などにより、 <u>避難(待避)対応が</u> 必要となる	<input type="checkbox"/> 想定2 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、 <u>昼間から夕方にかけて避難(待避)対応が</u> 必要となる	<input type="checkbox"/> 想定3 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、 <u>夜間から明け方にかけて避難(待避)対応が</u> 必要となる		
第一次体制 今後の状況に 備えて情報を 収集したり、 関係者に連絡を とったりできる体制	参集基準 <input type="checkbox"/> 近隣市町村で 大雨注意報が発表 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	出動体制 <input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	参集基準 <input type="checkbox"/> 近隣市町村で 大雨注意報が発表 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	出動体制 <input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()
第二次体制 施設利用者の 避難(待避)準備 をおこなえる体制	<input type="checkbox"/> 大雨注意報が発表 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 大雨注意報が発表 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()
第三次体制 施設利用者の 避難(待避)を 開始できる体制	<input type="checkbox"/> 大雨警報 <input type="checkbox"/> (土砂災害)が発表 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 大雨警報 <input type="checkbox"/> (土砂災害)が発表 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()
避難(待避)基準	<input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報 が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mm を超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mm を超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象 を確認 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報 が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mm を超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mm を超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象 を確認 <input type="checkbox"/> 日勤者が出勤してきたタイミング <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報 が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mm を超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mm を超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象 を確認 <input type="checkbox"/> 日勤者が退勤する前のタイミング <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()	<input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報 が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mm を超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mm を超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象 を確認 <input type="checkbox"/> 日勤者が退勤する前のタイミング <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()

様式2-2：防災体制 - 参集基準及び体制（想定4,5）

対象

A-2

B-2

群馬県手引き

追加様式

様式 2-2 では、事態の悪化が予見できる場合の
休所・休校判断について整理をしていきます。

<記入例> 下記に整理する考え方をご確認ください。



【参集基準及び体制、休所・休校判断 の考え方】

該当する事項のチェックボックスにチェックをし、
そのほか追加する事項がありましたら書き加えてください。

【1】“体制”について、各体制のイメージは下記のとおりです

【第一次体制】
情報収集や伝達を
おこなうことが中心



【第二次体制】
休所・休校判断の体制を
整えることが中心



【第三次体制】
送迎や引渡等の体制
を整えることが中心

【2】“想定4”については、開所・開校前までに判断がつく場合の対応
となりますので、第三次体制(送迎や引き渡し)に関する項目は不要。

【3】“想定5”については、開所・開校前までに判断しきれずに、
やむなく開所・開校した状況であり、いつでも休所・休校判断が
とれるように、送迎や引き渡しの体制を整えておくことが重要です。
場合によっては、避難(待避)をおこなうことも想定されますので、
その場合の判断基準も検討しておきましょう。

【雨量について】

“一般的に”土砂災害発生危険性が高まる雨量は、下記のとおりとされています。

■ 累積雨量(降り始めてから現在までの雨)： 100mm

■ 時間雨量(1時間に降った雨)： 20mm

(ワイパーを一番早く動かしてもはけきれない程の雨)



■ 参集基準及び体制、休所・休校判断基準 [主担当:]

年 月 日 作成

	<p><input type="checkbox"/> 想定4 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、施設・学校を事前に休所・休校する対応がとれる</p>	<p><input type="checkbox"/> 想定5 台風接近などによりあらかじめ状況が想定でき、通常通りに施設・学校を開けているが、施設・学校を休所・休校する対応がとれる</p>	<p>※想定5の状況から 急激に事態が進展するなどして 避難(待避)対応が必要となった場合の 避難(待避)基準</p>		
<p>体制</p>	<p>参集基準</p>	<p>出動体制</p>	<p>参集基準</p>	<p>出動体制</p>	<p>避難(待避)基準</p>
<p>第一次体制 今後の状況に備えて情報を収集したり、関係者に連絡をとったりできる体制</p>	<p><input type="checkbox"/> 近隣市町村で大雨注意報が発表 <input type="checkbox"/> 前日から対応 <input type="checkbox"/> 夜間から対応 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 近隣市町村で大雨注意報が発表 <input type="checkbox"/> 前日から対応 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象を確認 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>
<p>第二次体制 施設休所や学校休校の判断をおこなえる体制</p>	<p><input type="checkbox"/> 大雨注意報が発表 <input type="checkbox"/> 前日から対応 <input type="checkbox"/> 夜間から対応 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 大雨注意報が発表 <input type="checkbox"/> 朝から対応 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象を確認 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>
<p>第三次体制 施設利用者や子どもの送迎や引き渡しを開始できる体制</p>	<p><input type="checkbox"/> 大雨警報(土砂災害)が発表 <input type="checkbox"/> 朝から対応 <input type="checkbox"/> 昼から対応 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 大雨警報(土砂災害)が発表 <input type="checkbox"/> 朝から対応 <input type="checkbox"/> 昼から対応 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 総括責任者 <input type="checkbox"/> 情報収集・連絡班 <input type="checkbox"/> 避難誘導班 <input type="checkbox"/> 物資班 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象を確認 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>
<p>休所・休校判断基準</p>	<p><input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象を確認 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象を確認 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象を確認 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象を確認 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>	<p><input type="checkbox"/> 高齢者等避難(警戒レベル3)が発令 <input type="checkbox"/> 土砂災害警戒情報が発表 <input type="checkbox"/> 累積雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 時間雨量が()mmを超過 <input type="checkbox"/> 前兆現象を確認 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ()</p>

様式3：情報の収集・伝達 - 情報収集・伝達事項の整理

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

追加様式

様式3シリーズでは、どんな情報を収集するのか、その情報を誰に・どのように伝達するのかについて検討します。

“情報収集・連絡班”を中心に関わる内容となります。



【“情報収集・伝達” についての計画作成手順】

【1】まず始めに **様式3** を使用し、大枠を整理しましょう。



【2】「情報収集」について、**様式3-1** を使用し、“**主な入手方法**”や“**活用場面**”を整理するとともに、“**情報の概要**”も事前に確認しておきましょう。



【3】「情報伝達(内部)」について、**様式3-2** を使用し、“**伝達ルート**”を可視化しておきましょう。

※ 実際の電話連絡については、様式2②を活用



【4】「情報伝達(外部)」について、**様式3-2①** を使用し、“**伝達タイミング**”や“**伝達ルート**”を整理するとともに、“**外部機関の緊急連絡先**”を整理しておきましょう。

※ 緊急時の対応などについて、必要に応じて外部機関の担当者と相談しておくことが重要



【5】「利用者利用者情報」について、**様式3-2②** を使用し、整理しておきましょう。



■ 情報収集・伝達事項の整理

本施設に関わる災害の危険性などを把握するために情報収集をおこなうとともに、職員や外部機関、利用者家族などへの情報伝達をおこなうことで、円滑かつ迅速な避難誘導へと繋げること目指し、情報収集・伝達事項について、下記に整理する。

(1) 情報収集及び情報伝達を担う担当者

- ・ 様式2① に示す「情報収集・連絡班」を基本とする
- ・ 夜間や休日など通常体制と異なる場合は、「情報収集・連絡班」が参集するまで在勤者が役割を担う
- ・ そのほか
()

(2) 情報収集

- ・ 収集する主な情報及び収集方法を、様式3-1 に整理する。
- ・ 基本的には、下記のような情報を対象とする。
 - “気象情報”・“避難情報”などの行政からの情報
 - “雨量”などの実測値
 - 施設周辺で確認される“土砂災害の予兆現象”など
- ・ そのほか
()

(3) 情報伝達

- ・ 入手情報の伝達・共有ルートを様式3-2 に整理する。
- ・ また、外部機関との連携が想定される場合には、あらかじめその旨を相談し、緊急連絡先として整理する。
- ・ そのほか
()

様式3-1：情報の収集・伝達 - 入手情報の概要・入手方法等

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

様式 2-1

様式 3-1 では、情報の意味や活用場面、入手方法について整理します。

<記入例> 「群馬県手引き」 3-10 ページ

※該当ページ 3-9 から 3-11 ページ



【入手情報の概要・入手方法等 の考え方】

【1】様式3-1の表の“情報名”と“概要”に記載されている内容を確認し、**どんな情報入手するのか、事前に確認**しておきましょう。

【2】“活用場面”については、下記が想定されます。

① 体制の移行、② 避難判断の基準、③ 避難準備の基準 など

※「防災体制(様式2-1および様式2-2)」で検討した内容と照らし合わせながら記入しましょう。

【3】“主な入手方法”については、下記が想定されます。

① テレビ、② ウェブサイト(アプリ)、③ 屋外スピーカー(戸別受信機)、④ 関係機関からの電話やFAX、⑤ 自治体のメールサービス など

【4】ウェブサイトによる情報収集をおこなう場合には、迅速に情報収集をおこなえる体制を整備しておく必要がありますので、**事前にウェブサイトをお気に入り登録**するなどしておきましょう。



■ 入手情報の概要・入手方法等【 主担当：情報収集・連絡班】（様式3-1）

年 月 日作成

※事前にウェブサイトをあらかじめ登録するなどして、緊急時に備える【使用するPC】

情報名	概要	活用場面	主な入手方法	備考
気象情報	大雨注意報／大雨警報／大雨特別警報	災害がおこるおそれのあるときに気象庁が発表する雨の強さを表した基準	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
	記録的短時間大雨情報	数年に一度程度しか発生しないような大雨時に発表。現在の降雨が災害の発生につながる可能性があることを意味する	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
	天気予報・台風情報・雨雲の様子等	数日・週間単位の天気の移り変わりを把握するために特に重要となる情報	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
土砂災害関連情報	土砂災害警戒情報	大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、危険度がさらに高まったときに、市町村単位で警戒をよびかける情報	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
	土砂キキクル(大雨警報(土砂災害)の危険度分布)	土砂災害警戒情報、大雨警報等を補足する情報。1km四方の領域(メッシュ)ごとに土砂災害発生危険度を5段階に判定した結果を表示	ウェブサイト そのほか()	
	土砂災害の予兆現象	土砂災害発生前には、予兆現象が確認されることがある。各種情報が発表・発令されていない状況においても有益な情報として活用できる	施設職員の目視、ライブカメラ そのほか()	
雨量・河川水位	雨量情報	現状の雨量及び過去3日程度の雨量(累計雨量)が確認できる(一定の雨量が長期間継続している場合等注意が必要)	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
	河川水位情報	現状の水位及び過去1日程度の水位変化が確認できる(一定の基準以上の水位上昇が確認できる場合等注意が必要)	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	
避難情報	高齢者等避難(警戒レベル3)／避難指示(警戒レベル4)	市町村から発令される避難の基準。要配慮者施設等では早めの避難が求められている。	テレビ、ラジオ、ウェブサイト そのほか()	

様式3-2：情報の収集・伝達 - 入手情報の伝達・共有ルート

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

様式 2-2

様式 3-2 では、情報の意味や活用場面、入手方法について整理します。

<記入例> 「群馬県手引き」 3-11 ページ
※該当ページ 3-9 から 3-11 ページ



【入手情報の伝達・共有ルート の考え方】

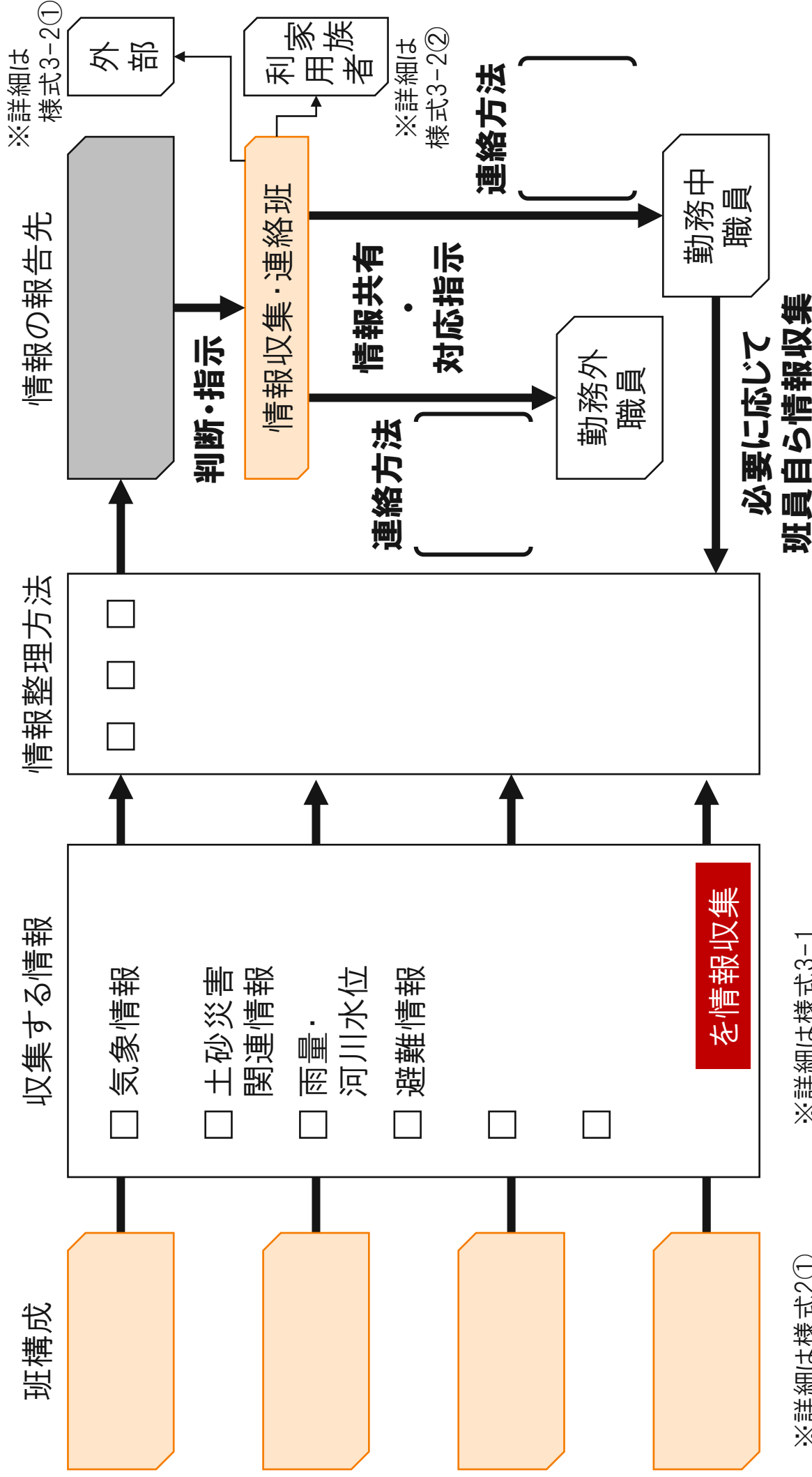
- 【1】 “班構成”については、情報収集・連絡班として、**情報を一元化することは重要な観点**ですが、そのなかでも、「A班は気象情報を収集する」、「B班は土砂災害関連情報を収集する」など**役割を分けておくことも効果的**であると考えます。施設の体制に応じて、検討してみてください。
- 【2】 “情報整理方法”については、下記が想定されます。
 - ① ホワイトボードに書き出す、② 模造紙などの大きな紙に書き出す、③ LINEなどのSNSを活用して情報を逐次更新する など
- 【3】 “情報の報告先”については、**判断・指示ができる人を選定**しておきましょう。
- 【4】 勤務中職員 や 勤務外職員への**連絡方法を事前に検討**しておきましょう。
(館内放送や電話連絡、LINEなどのSNS など)



■ 入手情報の伝達・共有ルート [主担当:情報収集・連絡班]

(様式3-2)

年 月 日 作成



※詳細は様式2①

※詳細は様式3-1

様式 3-2① では、外部機関への伝達方法やその連絡先について整理します。

<記入例>

「群馬県手引き」 3-12 から 3-13 ページ



【外部への情報伝達 の考え方】

- 【1】“外部へ情報伝達をおこなう”タイミングについては、なるべく早めに設定しておくこと重要ですが、外部とどの程度連携するのかに応じて、施設にあったタイミングを検討しましょう。
- 【2】“情報伝達ルート”については、施設の体制にあったものを検討しましょう。
- 【3】“外部の緊急連絡先”については、いざというときのために事前に確認しておきましょう(下記が想定されます)。

① 消防・救急、② 警察、③ 市町村、④ 市町村消防本部、⑤ 病院、
⑥ ライフライン事業者(電気・ガス・水道等)、⑦ 協力施設 など

※ **すでに他計画で作成**(消防計画や地震防災応急計画など)していたり、
日常使用しているものがあったりするようでしたら、**再度作成する必要はありません。**

※ 本様式については、一部個人情報も含まれることや
定期的な更新が想定されることから**市町村への提出は不要**です。
適切に管理しましょう。



様式3-2②：情報の収集・伝達 - 施設利用者把握資料

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

様式 6

様式 3-2② では、施設利用者情報について整理します。

<記入例> 「群馬県手引き」 3-3 ページ

※該当ページ 3-1 から 3-3 ページ



【施設利用者情報 の考え方】

【1】作成対象について

<入所系施設> <通所系施設・学校(利用者固定)>

普段から作成・運用しているものがあるかと思いますので、そちらを活用ください。
※必要に応じて様式をご活用ください

<通所系施設(不特定多数が利用)>

あらかじめ整理しておくことは困難なため、いざという時には、その場で情報を収集しましょう。

【2】避難対応時には、利用者家族への連絡を

おこなうことが想定されますので、あらかじめその旨を利用者家族へ伝えておきましょう。

※ **すでに他計画で作成**(消防計画や地震防災応急計画など)していたり、**日常使用しているもの**があったりするようでしたら、**再度作成する必要はありません**。

※ 本様式については、一部個人情報も含まれることや定期的な更新が想定されることから**市町村への提出は不要**です。**適切に管理**しましょう。



■ 施設利用者把握資料 [主担当:]

年 月 日作成

① 利用者一覧表(基本情報)

番号	部屋	氏名	生年月日	性別	移動時の支援の要否

② 利用者一覧表(個票)

番 号		
部 屋		
氏 名		
生年月日		
性 別		
心身の状態		
服用中の薬		
搬送方法		
避難に係る留意事項		
連絡先1	氏 名	
	続 柄	
	電 話	
連絡先2	氏 名	
	続 柄	
	電 話	

様式4：避難誘導 - 緊急時の避難誘導

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

追加様式



様式4シリーズでは、
施設外避難や施設内待避に関わる、
避難ルートや必要な備品などについて検討します。

“避難誘導班”を中心に関わる内容となります。

【“避難誘導” についての計画作成手順】

【1】まず始めに **様式4** を使用し、大枠を整理しましょう。
↓
想定している“避難場所”を明記するとともに、
“移動手段”についても事前に検討しておきましょう。

【2】＜施設外避難原則タイプ＞

施設外の避難ルートの検討（**様式4-1**）が必要です。
必要に応じて配車計画（**様式4-1①**）を検討します。

＜施設内待避可能タイプ＞

施設内の待避ルートの検討（**様式4-2**）が必要です。

※「施設外避難原則タイプ」の施設においても、
最悪の状況（外にも出られないような急激な大雨など）を想定し、
施設内で比較的安全と思われる場所を探しておくことも重要です。

※「施設内待避可能タイプ」の施設においても、
無理に施設外へ避難する必要はありませんが、
状況想定ができ、余裕がある状況で不安な場合には、
施設外避難を選択することも重要な観点です。



■ 緊急時の避難誘導

避難誘導については、下記のとおり行う。

(1) 避難場所

- ・ 避難場所の名称を下表に整理するとともに、様式4-1 または 様式4-2 で図示する。

(2) 避難経路

- ・ 避難経路について 様式4-1 または 様式4-2 で図示する。

(3) 避難誘導

- ・ 避難場所までの移動距離及び移動手段を下表に整理する。

施設タイプ チェック (5ページ結果)	避難 方法	避難場所	移動 距離	移動 手段
	施設外 避難 原則		() m	<input type="checkbox"/> 徒歩 <input type="checkbox"/> 車両 ()台
	施設内 避難 可能			

※ 施設外避難が原則な場合においても、大雨等で施設外避難が困難だと想定される場合には、施設内で比較的安全と思われる場所へ待避を行う。

※ 施設内待避が可能な場合においても、今後の状況悪化に不安がある場合などにおいては、避難時間に余裕がある場合のみ施設外避難を行う。

様式4-1：避難誘導 - 施設外避難 避難ルートと留意点

対象

A-1

A-2

群馬県手引き

参考 9-4

様式 4-1 では、〈施設外避難原則タイプ〉の避難ルートとその留意点について整理します。

〈記入例〉「群馬県手引き」 3-20 ページ
※該当ページ 3-18 から 3-20 ページ



施設外避難

【避難ルートの考え方】

- 【1】避難先施設については、原則、下記のような優先順位1の施設を探しましょう。
どうしても困難な場合には、優先順位2の施設を探すしかありませんが、十分に注意しましょう。

〈優先順位1〉

土砂災害警戒区域外の建物を選びましょう。

〈優先順位2〉

土砂災害警戒区域の外へ出ることが、移動時間や利用者の状況から困難な場合には、土砂災害警戒区域内であっても、“施設内待避可能タイプ”の施設の上階を選びましょう。

- 【2】避難時のルートについては、過去にあった災害などを参考にし、危険な場合にその場でルートを変更できるように複数のルートを選定しておきましょう。

- 【3】避難先施設には事前に相談しておきましょう。



施設外避難

■ 避難ルートと留意点 【主担当：避難誘導班】

施設外避難時のルートと避難の際の留意点を下図(または別紙)に示す。

年 月 日作成

--	--

避難先 施設情報	名称: 住所: 電話番号: 担当者:
-------------	-----------------------------

様式4-1①：避難誘導 - 施設外避難 配車計画表

対象

A-1

A-2

群馬県手引き

参考 9-3

様式 4-1① では、〈施設外避難原則タイプ〉の配車計画について整理します。

〈記入例〉 「群馬県手引き」 3-19 ページ
※該当ページ 3-18 から 3-20 ページ



施設外避難

【配車計画 の考え方】

- 【1】施設外避難の際に車両を使用する計画がある場合、あらかじめ配車計画を検討しておくことで、いざというときの混乱を避けることができます。
- 【2】日頃から送迎などで車を使用している施設は、すでに配車計画を作成していることが想定されますので、その計画を活用しましょう。
- 【3】様式4-1①に記載の内容は、可能であればここまで把握できると望ましいですが、施設の状況に応じて整理する項目を決めてください。
※最低限、使用可能な車両程度は整理しておきましょう。

※ **すでに他計画で作成**(消防計画や地震防災応急計画など)していたり、**日常使用しているもの**があったりするようでしたら、**再度作成する必要はありません**。

※ 本様式については、一部個人情報も含まれることや定期的な更新が想定されることから**市町村への提出は不要**です。**適切に管理**しましょう。



施設外避難

配車計画表

[主担当：避難誘導班]

年 月 日作成

配車計画表

便名			
移送先		人数	名
施設内誘導担当			
避難先担当			
車両			
運転手			
同乗者			
乗車場所			
内訳	座席		名
	車いす		名
	リクライニング式車いす		名
	ストレッチャー		名

様式4-2：避難誘導 - 施設内待避 待避ルートと留意点

対象

B-1

B-2

群馬県手引き

参考 9-2

様式 4-2 では、〈施設内待避可能タイプ〉の待避ルートとその留意点について整理します。

〈記入例〉「群馬県手引き」 3-22 ページ
※該当ページ 3-21 および 3-22 ページ



施設内待避

【待避ルートの考え方】

- 【1】待避場所については、原則、下記のような優先順位1の場所を探しましょう。
どうしても困難な場合には、優先順位2の場所を探すしかありませんが、十分に注意しましょう。

〈優先順位1〉

土砂災害警戒区域等がかかっていない部屋などを選びましょう。

〈優先順位2〉

土砂災害警戒区域等がかかっている場合でも、その部分が高層(2階や3階)である場合には、土砂災害警戒区域等内であっても、2階や3階の上階にある部屋を選びましょう。
※なるべくがけや沢から離れて待避しましょう。

- 【2】日頃から待避ルートの点検をおこない、いざというときにスムーズに待避できるようにしておきましょう。



施設内待避

■ 待避ルートと留意点 【主担当：避難誘導班】

施設内待避時のルートと待避の際の留意点を下図(または別紙)に示す。

年 月 日作成

施設内	
待避場所	

様式5：施設整備 - 備蓄品および災害時必要品チェックリスト

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

参考 7

様式5シリーズでは、備蓄および災害時必要品を整理します。“物資班”に関わる内容となります。

<記入例>

「群馬県手引き」 2-30 および 2-31 ページ



【備蓄品および災害時必要品 の考え方】

- 【1】 どの施設においても必要だと想定される備蓄や災害時必要品を整理しましたので、様式5に記載の事項に沿って確認をしましょう。
(最低でも3日程度は確保しておきましょう)
- 【2】 様式5以外で必要と思われる備蓄や災害時必要品がある場合には、追記するか別紙で整理しましょう。
- 【3】 事前に備蓄品および災害時必要品を確認し、「(避難(待避)の確保を図るための)**必要物資**」、「(施設外避難の際に持ち出す)**携行品**」、「(施設内待避の際に移動させる)**備蓄品**」に該当するチェックボックスにチェックを入れましょう。

※ **すでに他計画で作成**(消防計画や地震防災応急計画など)していたり、**日常使用しているもの**があったりするようでしたら、**再度作成する必要はありません**。



様式6：教育・訓練

対象

A-1

A-2

B-1

B-2

群馬県手引き

追加様式



様式6では、教育・訓練について、検討します。

作成した計画が実効性をもつためには、
日頃からの教育・訓練がとても重要となります。
事前に実施時期を定めておきましょう。

【教育・訓練 の考え方】

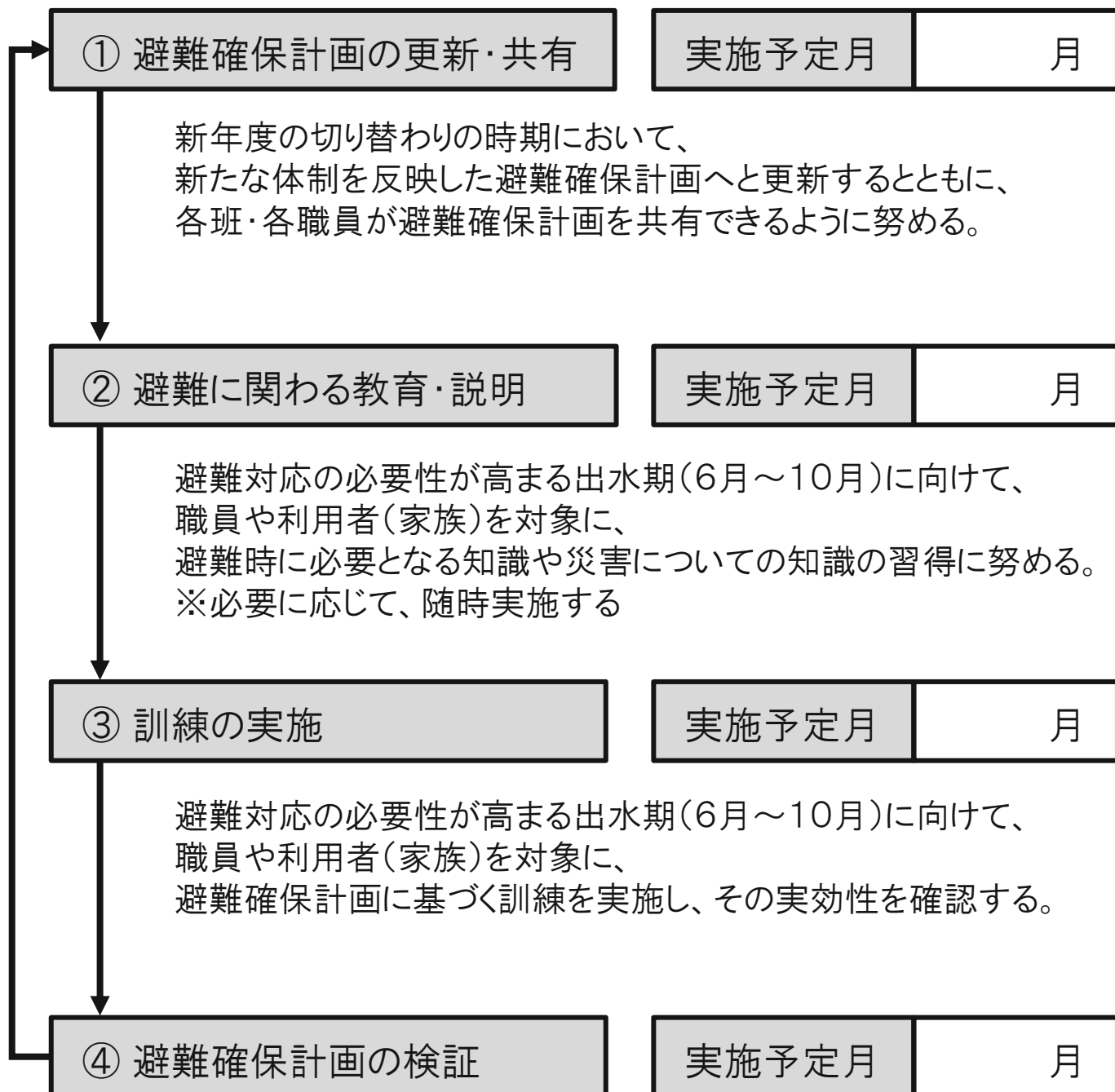
- 【1】 “①避難確保計画の更新・共有”について
 - 時期：4月などの新体制への切り替わり
 - 目的：計画の更新・共有、引き継ぎなど
- 【2】 “②避難に関わる教育・説明”について
 - 時期：出水期(6月～10月)前の5月・6月、随時
 - 目的：職員や利用者(家族)の危機意識を醸成
- 【3】 “③訓練の実施”について
 - 時期：出水期(6月～10月)前の5月・6月が理想
 - 目的：職員や利用者(家族)の危機意識を醸成し、
計画の実効性を確認する
- 【4】 “④避難確保計画の検証”
 - 時期：出水期(6月～10月)以降
 - 目的：避難確保計画の実効性を検証し、
より実効性のある計画へと更新する



年 月 日作成

■ 教育・訓練の年間計画

下記のとおり、教育・訓練を実施する。なお、具体の月日や内容については、施設の状況を勘案しその都度検討することとする。



上記の“避難に関わる教育・説明”、“訓練の実施”や、
出水期(6月～10月)の対応を踏まえて、避難確保計画の
実効性について検証をし、課題や問題の解決に努める。

6. おわりに

本書においては、要配慮者利用施設の管理者・避難確保計画作成担当者の皆さまの限られた時間の中で、効率よくかつシンプルに計画作成ができることを念頭に、“計画作成指南”として整理しました。

皆さまの貴重な時間をかけて検討・作成された避難確保計画が、要配慮者利用施設の利用者の安全・安心へと繋がっていくことを願っております。

そのためには、作っただけの計画に終わってしまうのではなく、いざという時に実効性のある計画へと高めていかなければなりません。

関係機関と事前に連携しておくことも重要です。計画作成や訓練、職員意識啓発等でお困りの際は、市町村・県へお問い合わせください。

安心・安全な群馬県をともに目指していきましょう。

群馬県県土整備部砂防課

計 画 作 成 後 の 流 れ

①作成した「避難確保計画」を 市町村へ提出しましょう！

義務

- 作成した計画に対して、市町村からの客観的評価が受けられます
- 不足事項があれば追記・修正しましょう
- いざという時のための連携等について、相談しておく良い機会となります
- 変更があった際にはその旨報告しましょう



義務

②避難訓練(教育)を 実施しましょう！

- 避難確保計画で定めた“教育・訓練”の事項に則り、定期的に避難訓練や教育を実施しましょう
(避難訓練は義務化となりました)
- 市町村や県は出前講座等を実施している場合がありますので、必要に応じてご相談いただき、積極的に活用してください



③施設職員や利用者(家族)との 良い関係性を築きましょう！

- 災害時に休所・休校対応や屋外避難対応をとることなど、利用者家族へ理解をいただいていることはとても重要です
- 施設職員や施設利用者(家族)に対して、避難確保計画の内容を共有することや、避難訓練に参加いただくなど、積極的にコミュニケーションを図っていくことが、安全・安心の意識に繋がるものと考えております
- 施設管理者・職員、利用者(家族)が一丸となり土砂災害からの対応を考えていくきっかけとしましょう



要配慮者利用施設における土砂災害警戒避難確保計画作成の手引き
〈別冊：様式・計画作成のポイント編〉
平成30年7月 作成・公表（令和3年6月更新）

製作：群馬県県土整備部 砂防課

監修：片田 敏孝

（東京大学大学院情報学環 特任教授）

（群馬大学 名誉教授）

協力：株式会社アイ・ディー・エー 社会技術研究所